

浦和明の星女子中学・高等学校

1、目指す学校像 一人ひとりを「特別な存在」として大切にす教育
校訓「浄」に基づいた「本当の自由を生きる」

2、重点目標

1) 学校全般

校訓「正・浄・和」の中でも、今年度は特に「浄」についての考えを
深め、「ほんとうの自由を生きる」とはどのようなことかを、「自由」
について様々な角度から見つめながら、個々の実践へとつなげていく。

校訓「浄」の認識、理解及び「浄」を支えとした「和」、その上で、そ
れらを包括する「正」の認識、理解。

校長からの「手紙」という形で行ったアッセンブリの内容は、常に
今年度の実践目標を生徒達に意識づける内容であり、理解をしやすい
具体的な例を提示した。

そして個々が、それらを手がかりとし、毎日の学校生活の体験と重ね
合わせながら「ほんとうの自由を生きる」事の大切さ、意味の深さの
理解に努めていった。

本校の考えている「自由」というものが、単なる「束縛からの自由」
を意味するものではないことから、「神から与えられた自由」の意味の
理解のために、アッセンブリや毎日の朝礼の話の中でも、事あるごとに
「ほんとうの自由とは」を伝え続け、私達が「自由を」生きているのだ
という理解を深めていった。

次年度は、校訓「正・浄・和」の中において、特に「和」の目指すところの
理解を深める年となる。

「浄」から「和」ということで、「自分」から「他者」へと視点に広がり
が出る年となるため、生徒間の交わりから生まれる「和」に敏感となり
教員の深い理解や積極的な働きかけが大きな課題となる。

＝達成度 A

2) 教育

中高一貫教育の中で、学習指導・進路指導の徹底をはかる。

充実した学習指導と共に、学びの中から生まれる喜びや発見が、自らの心の豊かさ、向上につながるよう指導。また明の星での6年間を終了後も、「最善の私」としての生き方を追い求める学びの素地を創る。

大学進学に特化した進路指導ではなく、常に自己の内面と向き合い、「最善の私」としての歩みの実現を助ける進路指導を行う。

生徒達の学力定着、伸張を図る学習指導、学習到達目標達成および大学入試、志望進路にむけた、日々の具体的学習指導を行った。

また、生徒との細やかな面談を行い、学習状況および自己実現に向けた志望進路を把握することに努めた。

各教科の教科会等で、より良い授業作りの研究、さらには研修会への参加等により研鑽を積んだ。

教員による学習到達目標に対する授業評価は、概ね良好。志望の進路決定に関しても、多くの生徒達が真の自己実現に向けた選択を行うことができた。

=達成度 A

3) 広報

明の星教育を広報する方法を確立する。

明の星の目指す教育内容を、幅広く多くの人に広報する。

教員一人ひとりが明の星教育を理解し、教員が一体となって広報活動に努める。

入試広報業務の改善、再検討を行う

学校見学会、学校説明会の実施。学校紹介パンフレット・新聞・DVDの作成。中学校フェア等への参加。

社会の現状に合わせた入試広報、入試業務への変更、その確立。

昨年に引き続き、コロナ禍において、学校見学会、学校説明会には予約制を導入し、実施の工夫を試みた。それらが無事に実施され、明の星の精神、教育理念について、広く広報することができ、ほぼ例年同様の入学出願者が集まった。

=達成度 A

4) 財務

安定した財務管理

計画的な財務の確保を継続する。

創立60周年行事等を踏まえた財務管理。

計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が行われた。

=達成度 A

達成度 A ほぼ達成 B 概ね達成 C 変化の兆し D 不十分

2022年度学校関係者評価

浦和明の星女子中学・高等学校

学校関係者評価委員会

日 時 2023年3月31日

関係者 学校関係 : 校長 高校教頭 中学教頭 事務長
正和会(保護者会) : 会長、副会長3名

※ 書面にて実施

○教育方針・教育環境について

生徒の自主性を重んじる明の星教育の中で、生徒は着実に自分らしさを気づいていくことができたと感じている。

校訓「浄」を深く掘り下げ、生徒が素直に理解できるように、工夫をして伝えていただいていたと思う。

コロナ禍を経験して、すべてにおいて、直接の様々な交流が教育においては何より重要と感じた。

○その他意見・要望

より深く理解し、自分の知識とすることができる授業であった。
わからない箇所を、積極的に先生方に質問しに行くことができる学校の雰囲気
感謝している。

大学進学についての情報提供やサポートのより一層の充実を望みたい。
「情報」やICT教育の充実は、時代に即した教育であり、生徒の将来に資するもの
と思う。

広報活動や保護者への連絡等については、ホームページやメールの活用をお願い
したい。

学年だより「桃の花」のようなものが高校にもあってほしい。

社会状況とは関係なく、保護者会の開催形式を対面とオンライン併用にしてもら
えるとありがたい。

2022年度 浦和明の星女子中学・高等学校 第三者評価

1. 学校全般

○建学の精神を支える校訓「正・浄・和」を踏まえ「自由」について見つめながら、個々で実践していた。

今年度は特に「浄」についての考えを深めていた。前提として、校訓「浄」の認識、理解及び「浄」を支えとした「和」、その上で、それらを包括する「正」の認識の理解に努め、校長からの「手紙」という形で行ったアssenブリの内容は、常に今年度の実践目標を生徒達に意識づける内容であり、理解をしやすい具体的な例となった。それらを手がかりとし、毎日の学校生活の体験と重ね合わせながら、単なる「束縛からの自由」ではなく、「神から与えられた自由」の意味を理解し、事あるごとに私達が「自由を」生きているのだという理解を深めていた。

2. 教育

○中高一貫教育の中で、学習指導・進路指導の徹底をはかる。

充実した学習指導と共に、学びの中から生まれる喜びや発見が、自らの心の豊かさ、向上につながるよう指導し、明の星での6年間終了後も、「最善の私」としての生き方を追い求める学びの素地を創れていた。大学進学に特化した進路指導ではなく、常に自己の内面と向き合い、自身の歩みの実現を助ける進路指導を行い、生徒達の学力定着、伸張を図る学習指導、学習到達目標達成および大学入試、志望進路にむけた、日々の具体的な学習指導を行っていた。また、生徒との細やかな面談を行い、学習状況および自己実現に向けた志望進路を把握できていた。より良い授業作りの研究、さらには研修会への参加等により研鑽を重ねていた。教員による学習到達目標に対する授業評価は、概ね良好。志望の進路決定に関しても、多くの生徒達が真の自己実現に向けた選択を行うことができた。

3. 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

明の星の目指す教育内容を、幅広く多くの人に広報すべく、教員一人ひとりが明の星教育を理解し、教員が一体となって広報活動に努めていた。学校見学会、学校説明会の実施。学校紹介パンフレット・新聞・DVDの作成や中学校フェア等への参加を実施していた。社会の現状に合わせた入試広報、入試業務への変更、その確立が必要とされている。学校見学会、学校説明会には予約制とし、無事に実施され、明の星の精神、教育理念について、広く広報することができ、ほぼ例年同様の入学出願者が集まる結果となった。

4. 財務

○安定した財務管理

創立60周年行事などを踏まえた財務管理を実施し、計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が達成されていた。

以上